
男女共同参画・若手支援委員会企画シンポジウム 今だから、今こそ、今なら言いたい、「博士を取ろう！」

オーガナイザー：日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会

日時：2020年9月18日（金）12:00～13:30

会場：オンライン開催

言語：日本語

形式：講演会

司会：大上雅史（東工大）

シンポジスト：池田宗太郎（文部科学省 研究振興局 基礎研究振興課）、上村みどり（帝人ファーマ 生物医学総合研究所）、落合陽一（筑波大学／ピクシーダストテクノロジーズ）

概要：「博士課程に進んでも取ってくれる企業が減って就活に不利になるから～」、「最近では任期付きのアカデミックポジションしかなくて不安定だから～」、「27歳にもなって学生でいるのもなあ～」。博士課程・博士の学位を取ることにネガティブな話題は事欠きません。周りの先生は博士取得を勧めてくるのだけど、いまいちメリットがピンと来ないという方も多いでしょう。でもそれは仕方がないことかもしれません。周りの先生はアカデミアに就職した人というサンプルに過ぎなく、企業や官公庁で働く博士の人たちにはなかなか出会う機会がないのですから。

私たち日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会でも、多様なキャリアパスを目指せるよう、企画シンポジウムを年会で開催して話題提供を続けています。直近では、『キャリアデザインの第一歩—大学院生・研究者のための自己分析ワークー』（2016年つくば年会）、『20代、30代を駆け抜けて：伝えたいこと、聞きたいこと』（2019年宮崎年会）など、講演会やワークショップを通じて参加者と一緒にキャリアパスを考える機会を作ってきました。しかしながら、それでも実際に博士を取ってアカデミア以外で活躍される方の話は、依然として聞けるチャンスは少なかったと思います。

そこで今年は、（せっかくのオンライン開催なのですから！）アカデミア以外の場にも焦点を当て、実際に企業や官公庁で活躍されている方々に、博士を取ること・取ったことのメリット・デメリットを含めた率直な話を聞いてみたいと思います。「産官学」、産＝産業界から帝人ファーマで創薬研究開発を進められている上村みどりさん、官＝官公庁から文部科学省で科学技術政策や研究人材育成に関わる池田宗太郎さん、産学＝大学・アカデミアと産業界を跨いで活躍されている筑波大／ピクシーダストテクノロジーズの落合陽一さんより、良かったことを（もしかしたら悪かったことも）存分に語って頂きましょう。本シンポジウムが若手研究者の皆さんのキャリアを考える一助になれば幸いです。